

ハイヒールオーダー 常設拠点

購入後も調整、リピーター確保



拠点を作り、1人1人に合ったサイズを測定する

神戸レザークロス

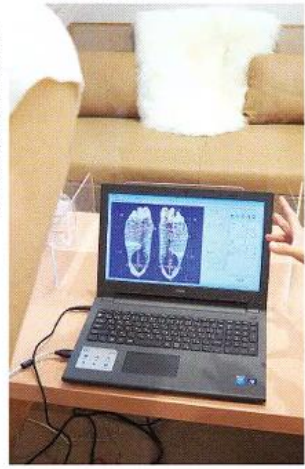
ワールド子会社で婦人靴製造の神戸レザークロス(神戸市)は、オーダーハイヒールのブランド「gauge(ゲージ)」の注文や購入後のケアを受け付ける「ラボ」を立ち上げた。3次元(3D)計測器による足型測定のほか、修理やサイズ調整をプロに相談できる。履き心地への満足度を高め、リピーター獲得につなげる。

ゲージは人の足をかたどった木型を製作する職人「木型師」らが2016年に立ち上げた。店舗を持たず、全国の百貨店などで期間限定で受注会を開催してきた。足の形状に合わせて右と左を別々の大ききで仕上げるなど、木型師が助言しながら足に合う30

とで通年での受注が可能になる。靴ひものないハイヒールのフィット感を高めるには測定が何より重要になる。過去の採寸履歴によると半数以上の人が左右で足の大きさが異なるという。幅やカーブの丸みもそれぞれ微妙に異なる。プロの目線から顧客に合ったサイズ感を見つけ出し、約1カ月半で自分の足に合ったハイヒールが完成する。

ラボ開設の狙いは細かな需要に応えることでリピーターを増やすことにある。同社によると1度に2足買う顧客が全体の2割を占める一方、再購入した顧客は1割しかない。重川亮一社長は「満足感が足りなかった」と分析する。ラボでは革が伸びて緩くなった場合などのサイズ調整にも応じる。

現在、つま先のどがった「ポイントッド」のパンプスのみでの展開だが、今後は別の形にも広げる。将来的にはヒール



3Dで足型を計測する

の高さなどフルオーダーも可能になる見通し。追加注文の場合はオンラインで可能だ。アパレル業界では消費者に商品を直接届けるD2C(ダイレクト・ツー・コンシューマー)のブランドが拡大している。ユニクロやしまむらなどカジュアル衣料大手も靴の販売を強化している。オーダーならではの満足感を提供できるかが成長のカギになりそうだ。

(宮嶋梓帆)